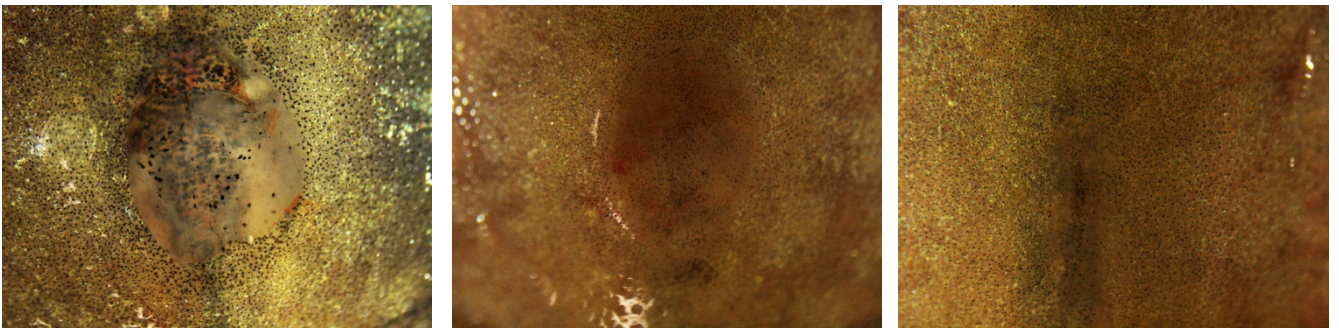


1. 担当教員：横山 仁（連絡先：農学生命科学部総務まで）
2. タイトル：両生類皮膚を指標とした、環境リスク因子に対する検定法の樹立
3. 概要：ヒトの皮膚と共通した基本構造を持つ両生類（アフリカツメガエル）の皮膚を利用して、とくに皮膚に対して有害な作用を持つ環境リスク因子を簡便にチェックできるアッセイ（検定）系を樹立する。皮膚が傷つけられた後（皮膚創傷後）の再生を指標にして、再生の阻害や遅れを観察することで農薬等の環境リスク因子の有害性を効率よく確実に検定できるようにする。これによって、最終的には青森県における安心・安全な食料生産環境の確立に資することを目的とする。これまでの研究から、共同研究先でも支障なく実施できる簡便な方法で、かつ常に一定のサイズでツメガエル個体に皮膚創傷を与えられる実験方法を検討した。
4. 参考資料



- 写真 左：Biopsy punch により直径 2.0mm の範囲でツメガエル個体の背中の皮膚を真皮を含めて円形に切除した。写真はこの皮膚切除の直後のもの。
- 写真中央：創傷後 4 日目、円形の創傷の跡がまだ識別できる。
- 写真 右：創傷後 10 日目、皮膚が再生し、傷あとがほとんど認められない。